



ペットは、私たちにとって元気をもらったり、癒^{いよ}しとなる存在です。ただし、子育てをしながらペットと暮らすときには、気をつけてほしいことがあります。

子育てサポート情報誌「すくすく」第33号は、「**ペットとの暮らし**」について取り上げてみました。

～ ペットが原因と考えられること ～

ペットからうつる病気（動物由来感染症）もあります。主な病気をあげてみました。

病名	感染経路	病気の特徴（症状）
狂犬病	感染した犬・猫等にかまれ、だ液中のウイルスの接触により感染	1～3週間の潜伏期間の後に発症。初期は風邪に似た症状で、かまれた部位に知覚異常がみられる。不安感、恐水症、興奮、麻痺等の神経症状が現れ、数日後に呼吸麻痺で死亡する。
エキノコックス症	キタキツネが主な感染源。ふんの中に病原体のエキノコックスの虫卵を排出。放し飼いをして感染した犬も感染源	エキノコックスの虫卵が口から入ることで感染。虫卵は腸の中で幼虫になり、その後肝臓に寄生。感染後数年から数十年後、自覚症状（初期には上腹部の不快感・膨満感、進行すると肝機能障害を起こす。）が現れる。
オウム病	インコ・オウム・ハト等のふんに含まれる菌を吸い込んだり、口移してエサを与えることにより感染	突然の発熱（38℃以上）で発症。せき、たん、全身倦怠感、食欲不振、筋肉痛、関節痛、頭痛等、インフルエンザに似た症状。重症になると呼吸困難、意識障害を起こす。

～ ペットを飼う際に気をつけたいこと ～



- ① **これから飼いたいという場合は、お子さんの体質がアレルギー体質かどうかわかるまで待ちましょう。** ペットを室内で飼うと、どうしても抜け毛などのゴミが多くなってしまいます。デリケートなアレルギー体質の赤ちゃんにとって、その症状を悪化させかねません。



- ② **小児喘息の原因の多くはハウスダストだといわれています。** 動物の毛にはダニがついていることが多いので、赤ちゃんの月齢が低いうちは、寝ている部屋には動物を入れないようにしましょう。**不慮の事故も予防できます。**

- ③ **ペットと同居するときは掃除をこまめにして、清潔を心がけましょう。** 室内は毎日掃除機をかけます。抜け毛をとるには粘着テープ式の器具を使うのもいい方法です。

- ④ **ふん尿は、速やかに処理しましょう。**乾燥すると空気中に漂い、吸い込みやすくなります。ふん尿に直接接触したり、吸い込んだりしないように気をつけ、早く処理しましょう。また、清掃のほか、定期的な換気にも努めましょう。



- ⑤ **ペットの身の回りは清潔にしましょう。**ペットも、ブラッシング、つめ切りなど、こまめに手入れをして清潔にしておきましょう。

- ⑥ **過剰な触れ合いは控えましょう。**細菌やウイルス等が動物の口の中やつめにいる場合があるので、口移しでエサを与えたり、スプーンや箸の共用は止めましょう。動物を布団に入れて寝ることも、濃厚に接触することになるので要注意です。



- ⑦ **ペットの健康状態に注意しましょう。**ペットのかかりつけの病院を持ち、飼い方や病気の予防、ワクチン接種などについて良きアドバイスを受けましょう。ペットから感染の恐れのある感染症についての知識を持つことが大切です。

- ⑧ **飼い主自身の身体に不調を感じたら、早めに受診しましょう。**動物由来感染症に感染しても、風邪やインフルエンザ、よくみられる皮膚病などに似た症状が出る場合が多く、病気の発見が遅れがちです。特に小さい子どもや高齢者は、一旦発症すると、重症化しやすいので要注意です。医療機関を受診する際は、ペットの飼育状況や接触状況についても医師に話しましょう。



※ペットを飼う際に気をつけたいことをいろいろあげてみましたが、小さい頃からペットと触れ合うことで、お子さんの動物をかわいがるやさしい気持ちや生き物に対する思いやりなどが育ち、ペットから学ぶこともたくさんあります。毎日のお手入れを心がけ、飼い主とペットが、楽しく快適に暮らしていくことができるといいですね！

